

入学後に行う看護学か検査技術学のコース選択により、  
地域や国際社会に貢献する保健医療福祉の専門識者へ

# 保健学科

School of Health Sciences



保健学科は、生命尊重の倫理観、科学的根拠に基づく実践力を有する看護師や臨床検査技師などの保健医療福祉の専門職者、および研究者・教育者の育成を目指しています。保健医療福祉の分野が対象とする国際社会や地域、個人には、多様な歴史背景、価値観、健康に関するニーズがあることから、生命倫理だけでなくこれらの問題にも対応できる人材を養成するための専門的な教育も充実させています。さらに保健医療福祉の専門職者に不可欠な生涯にわたる学習ができるよう、学生の自主性、思考力、探求力、問題解決能力を高める取り組みも行っています。入学試験では「前期・後期」のほか、「学校推薦型選抜」、「帰国子女」、「私費外国人」の計4種類を実施し、多彩な人材の獲得にも努めています。このように保健学科では、多種多様な学生がお互いを高め合いながら、日々研鑽を積んでいます。

	1年次	2年次	3年次	4年次
	主に大学の共通教育等科目を履修します。	「看護学コース」と「検査技術学コース」にわかれ、それぞれの専門科目を学修しながら病院、地域、学校などで臨地実習を行います。	3・4年次は各自が興味のある研究室で教員の指導を受けて卒業研究に取り組みます。なお保健学科では看護師、保健師、助産師、臨床検査技師の国家試験受験資格の取得の他、養護教諭や健康食品管理士の養成も行っています。	
保健学 共通 科目	●生命倫理学や保健医療分野の早期理解を目的とした早期体験実習、保健福祉政策論、保健関係法規等を実施。	●疫学、薬理学、病理学を実施。	●卒業研究に取り組み。	●卒業研究に取り組み、後期の発表後は各自、国家試験の準備を本格化する。要望に応じて、教員による国家試験対策授業を実施。
看護学 コース	●第2クォーターに看護学概論、第4クォーターに生活援助看護技術Iおよび生活援助看護技術実習Iを病院で実施。	●症候病態論、小児・母性・成人・高齢期等の看護師に必要な科目を実施。保健師や養護教諭の希望者を対象とする選択科目・教職科目を開始。	●精神・家族看護学、小児・母性・成人・高齢期・在宅看護実践学、緩和ケア論等の看護師に必要な科目を実施。第4クォーターに在宅・母性看護学臨地実習を実施。	●第1・2クォーターに小児・精神・成人急性期・成人慢性期看護学実習等の看護師に必要な臨地実習を実施。第3・4クォーターに助産師、保健師、養護教諭に必要な臨地実習を実施。
検査 技術学 コース		●免疫学、臨床血液学、臨床検査総論、病態生理学、医用電子工学、保健統計学等の臨床検査技師に必要な科目を実施。 ●食品衛生学や健康食品学など、健康食品管理士希望者を対象とする選択科目を実施。	●臨床微生物学、臨床病理学総論、臨床生理学、保健技術学実習I・II・III等の臨床検査技師に必要な科目を実施。	

## Admission Policy [求める人材像]

本学科は看護、臨床検査、国際・地域保健等の分野でリーダーシップを発揮し、活躍できる人材の育成を目指します。

そのため、以下の資質を備えている人を求めています。

- 生命科学、保健・医療・福祉に強い興味と関心を持ち、主体的に学ぶ意欲のある人
- 生命を尊重し、相手の身になって行動できる人
- 自らの目標に向かって自己啓発し、多様な人々と協働ができる人
- 論理的に物事を考え、科学的に解決する意欲のある人